

災害時の医療機器・医療材料の管理

使用している医療機器・医療処置	対応方法および注意点
人工呼吸器・吸引器・在宅酸素濃縮器（酸素ボンベ）	*詳細は別紙 Q&A 参照。
持続静脈注射・中心静脈栄養（輸液ポンプ、持続皮下注射含む）	注射液、点滴ルートの確保。輸液ポンプ、持続皮下注射を使用の場合は、充電池を準備する。
経管栄養	栄養剤、イリゲーター、栄養剤滴下セットの確保。停電に備え介護用ベッドはギャッジアップせずに、布団やクッション等で上体を起こす。
ストーマ（人工肛門、人工膀胱）	ストーマ用品の確保。非常食の摂取が続いた際、排せ状況の変化に注意。パウチ交換不可時のために尿取りパットを2～3枚用意する。
人工血液透析	かかりつけ病院が対応不可の場合、代替の受け入れ可能な病院を主治医へ確認する。「透析患者カード」を携帯する。 *日本透析医会災害情報ネットワーク http://www.saigai-touseki.net/index.php
CAPD（連続携帯式腹膜灌流透析）	透析液および交換に必要な物品の確保。
インスリン注射	注射器・インスリン製剤・物品（血糖測定器・アルコール綿等）の確保。「糖尿病手帳」を携帯する。非常食の摂取が続く場合、高・低血糖に注意する。低血糖に備え糖分補給の用意をする。
内服管理	残薬の確認。不足の場合で主治医が処方できなければ、受け入れ可能な医療機関に相談する。必ず内服する必要がある処方薬（例：降圧剤、抗凝固剤、抗けいれん剤など）と、「お薬手帳」を携帯する。
膀胱留置カテーテル	予備のカテーテル、畜尿バッグの確保。断水で水分摂取が困難な場合、カテーテルの閉塞等に注意する。